

天が開いた

マタイ三・一三―一七

「天」という言葉が今日はでてまいります。一見、宗教的な言葉のように見えますが、実は誰もが心に「天」をもっています。

「天」とは自分をこえた高い所にあつて人生をささえる何か。目標であつたり、価値観であつたり。日本のお正月は一人ひとりの「天」がなんであるかが垣間見える時でもあります。多くの人が初詣にいき、人生の新しい一年への思いを祈る。商売繁盛を「天」にしている人も、家内安全、学業成就が「天」の人もいるでしょう。それぞれに目標や願いがあることを否定すべきではありません。何かにむかつて努力し頑張ることはよいこと。短期的に自分を支えてくれもします。

ただ、どんなに素晴らしい目標や願いがあつて

もうまくいかないときがある。調子がいいときは頑張れるが、いつもそうとは限らない。長い人生、むしろそちらの方が多し。ただ上にあるだけの「天」では人間は生きられない。答えてくれない「天」にだんだん気力も気持ちもなえ、目標を見失い、刹那を生きるだけの人生になつては元も子もありません。もしかして「天」の定め方を間違つていなかったらどうか？

イエスはどんな「天」を生きたでしょう。ただ上にある「天」ではありませんでした。洗礼に始まつたその公生涯の最初、「天が開いた」とあります。自ら破れ、開き、愛する者のもとに迫つてくる「天」。あなたが私の愛する子！と語りかける「天」。それがイエスの「天」でした。イエスとともに洗礼をうけ、甦つた私たちは決して八方塞がりにはなりません。なぜなら、上が開いている！ 私たちの「天」は「開く」。開いたその天窓から、神の愛が注がれてきます。